

第35回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時：平成28年9月16日（金）10：30－12：30

場所：郡山ビューホテル アネックス

2. メンバー

政府：（議長）高木原子力災害現地対策本部（経済産業副大臣）

環境省：渡邊水環境課長

国土交通省：小俣河川環境課長

水産庁：竹葉増殖推進部研究指導課長

廃炉・汚染水対策チーム：田中特別対策監

尾澤事務局長補佐、秦対策官

柿崎企画官、湯本事務局総括

廃炉・汚染水対策現地事務所：木野参事官、本田調整官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構：松永所長

東京電力：新妻福島復興本社副代表、増田プレジデント

有馬バイスプレジデント

石川廃炉推進Cプロジェクト統括管理センター長

福島県（オブザーバ）：五十嵐政策監

規制当局 原子力規制庁：山田審議官、持丸調整官

3. 結果概要

冒頭挨拶

- ◇本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝。
- ◇8月にはいくつかの台風が関東・東北地方を通過し、不安がいろいろありましたが、1Fでは風雨による漏えい事故・事象は発生しませんでした。汚染水を外部へ流出させないタンクの堰や構内排水路等の対策が進んでいるということですが、引き続き気を引き締めて取り組んでいきたいと思えます。
- ◇他方で、先日66kV引留鉄構の損傷が明らかになりました。常日頃からの施設、設備の点検、メンテナンスの重要性を改めて指摘したいと思えます。
- ◇また、敷地境界連続ダストモニタの警報発生や雑固体廃棄物焼却設備の停止等の事象が起っています。一つ一つの事象に対し丁寧に原因分析を行い再発防止策を講じていくことが、住民の皆様の不安を払拭し、長期間にわたる廃炉・汚染水対策を安全かつ確実にやり続けていくための最善の方法だと思えますので宜しく願いいたします。9月1日、11市町村と東京電力の間で締結された安全協定も踏まえ、引き続き住民の皆様の視点に立った情報公開を進めてまいりたいと思えます。
- ◇凍土壁については、先行して凍結を開始した海側については約99%、山側についても約91%が0℃以下になりました。9月末には海側の凍土壁の効果が発揮されることを目指し、取り組んでまいりたいと思えます。海側の未凍結の箇所補助工法については概ね完了しており、また、一連の台風による降雨の影響によって、温度の上昇が見られた箇所についても9月中に実施する予定と承知しております。本日は、特に補助工法の取り組み状況について詳しい説明を受けたいと思えます。第3段階である水ガラスについては、後ほど皆様には凍結の実演をいたしますので、記者の皆様、関係者の皆様におかれてはぜひご覧いただければと思えます。
- ◇その他にも、原子炉建屋におけるカバー解体工事や遮へい工事等が着実に進められている状況、協力企業の執務環境改善の状況等について報告を受けたいと思えます。
- ◇本日も活発な御意見、徹底した御議論をお願いいたします。

(以上)

主な指摘事項

議題 資料1-3

- 1号機の壁パネルの取り外しを開始した監視体制を構築しつつ、ダストモニタの警報発生についても相次いで発生しているので、対策を構築すること。一方で、モニタリングポスト7周辺でトラックの走行による人工核種が検出された、道路の両脇をフェーシングする約束になっていたかと思うが、片側道路しかフェーシングされていなかった。モニタリングポスト7に加えモニタリングポスト8周辺も雑草が生い茂っている状況であり、処理・管理を徹底すべき。

議題 資料1-2

- ドレンサンプピットの対策について、水位計設置で工程表が終わっているが、雨水がたまってしまふことを防ぐために、コンクリート等で充填すべきではないか。
- (以上の指摘も実行することはもちろん、)空気線量を下げるとの効果は算出したのか。水を抜くことで線量を下げるといふ効果はないのか(そもそも、目的としているのではないか)。

議題 -

- 凍土壁について、雨が原因で4m 盤の汲み上げ量が増えるという理由を言っているが、フェーシング等の対策をしているのに汚染水が増えるのはおかしいというのが世間の認識。雨の影響とは別に、海側の凍土壁の効果はしっかりと数値で外に出すべき。国会、県議会も始まるので、しっかりと公表データの整理、原因との切り分けを行ってほしい。
- 凍土壁の地下水流入効果をしっかりと県民に発信すべき。1号機壁パネル取り外しも廃炉へ一歩前進したと認識。一方でダストの飛散等の不安は県民会議で住民から意見が出ているので、丁寧に作業を進めてほしい。

議題 資料2B

- フランジタンクについて、溶接型に切り替えを行う一方で、引き続き使うフランジタンクがあるので、保守管理は徹底すべき。設置後、5年経っていないフランジタンクにもしっかりと行うべき。
- 4m盤の汲み上げ量もある程度改善されてきているが、雨が降ると増加している。これだけのデータがあるので、今回のような雨の影響による汲み上げ量の増加を分析してほしい。限られた流入箇所にとらわれていると言うことだが、雨により汲み上げ量が2、3倍になるという事は雨が原因であることが考えられるので、よく分析すべき。
- 凍土壁の山側で0℃以下になっているのは、まだ91パーセントということで、とにかく山側も閉じなければ意味ない。そのためにも、4m盤の地下水分析をし、凍土の効果을明らかにして欲しい。
- 新設排水路の水質確認について、K 排水路の上流側でも確認してほしい。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡